

MIE EMPLOYERS' ASSOCIATION

東日本大震災により犠牲になられた皆様のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。



夫婦岩大注連縄張神事 夫婦岩に新しい大注連縄を掛け替える神事です。5月5日、9月5日、12月中旬の土・日曜日の年3回行われます。威勢のよい木遣り唄が流れる中、お祓いを受けた大注連縄は氏子らの手によって、夫婦岩に張り渡されます。参拝者も参道から手送りで参加することが出来ます。
写真提供：三重県観光連盟

目次・主な内容

■ Top News 理事・役員会	2
-------------------	---

■ トップインタビュー	4
-------------	---

■ 三重経協ニュース	6
------------	---

■ リレー随想	11
---------	----

■ トピックス	12
---------	----

■ 大学紹介	14
--------	----

■ 会員発HOTニュース	15
--------------	----

■ 委託事業 News	16
-------------	----

■ 事務局 News	17
------------	----

■ 業務日誌	18
--------	----

理事・役員会開催

3月28日(月)プラザ洞津3階「孔雀の間」において、理事・役員会を開催いたしました。当日は、22名の参加者があり、開会に先立ち、東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、黙祷を捧げました。



黙祷

1. 会長挨拶要旨

3月11日の宮城県三陸沖を震源とする「東北地方太平洋沖地震」におきまして、無念にも命を落とされた方々、けがをなされた方々、住む家を奪われた方々などすべての被災者の皆様に、衷心よりお悔みとお見舞いを申し上げますと共に、一刻も早い救援と復旧が行われますよう心からお祈りいたします。



挨拶する奥田会長

今回の震災では、三重県の人口の5分の1以上の方が、家も何もかも失ったということが報じられており、胸の痛む思いであります。中小企業の工場が流されて途方に暮れている方々の報道を見ますと、従業員の方も大変ですが、経営者の方のご苦労は本当に他人事ではないと思われれます。また、政府や東京電力に対しての批判も相当強いものがあります。計画の見通しの甘さ、情報開示の伝達の遅さ、不明瞭さ、対策の小出しなど非難が集中しています。我々経営を預かる者としては、危機管理の重要さを

改めて知らされることになりました。

全体として我が国の経済に深刻な影響を及ぼしています。我が国のみならず、世界的にも波及するのではないかと。特に新興国に対して重い課題が日本経済に出てきたように思います。

このような混乱期の中で新年度（平成23年度）を迎えるわけですが、当協会は地域の総合経済団体として、他の経済団体と力を合わせこの難局を乗り越え、また会員企業の皆様に対しても広範な最新情報の提供をはじめ、さまざまな課題に関するタイムリーな情報提供に努め、皆様の相互研鑽と情報交換の場の提供に努め、地域経済の発展に寄与してまいりたいと考えております。

本日は総会の後、野呂三重県知事より「2期8年を振り返って」と題して特別講演会がございます。退任の前に、今まで以上に袴を脱いだ話が聞けるのではないかと思います。どうか最後まで皆様のご参加をお願いしまして、ご挨拶とさせていただきます。

2. 協議事項

(1)平成22年度事業進捗状況

(2)平成23年度事業計画及び予算（案）について

上記2件の協議事項については、承認を得ましたので、会長・副会長会議に諮り、5月の定時会員総会に提案をさせていただくことになりました。

3. 活動報告

(1)第18期労務管理改善協力委員会活動報告

(2)厚生労働省・三重県委託事業活動報告

(3)第45回三重労使会議

(4)みえ雇用創出会議報告

(5)三重労使雇用支援機構

(6)その他・連絡事項

以上の活動報告が事務局より報告されました。



理事会風景

特別講演会

2期8年を振り返って

三重県知事 野 呂 昭 彦 氏

県民が主役の県政

今の時代、何の為に県政が必要なのかそう言った事をしっかり追求して行くべきだと思います。行政はそれぞれ地域の人生の舞台づくり、県政は県民の舞台づくりです。これがまずスタートの原点であります。知事になった時から3つの基本姿勢3本柱を出しています。「県民が主役の県政」「県民との協同により築く県政」「感性を県民と共に磨く県政」、感性がないと一体何の為にやっているのかわからなくなってきます。手段を目的化するのは間違いになってしまいます。県民が主役であるから、県民との公聴広報チャンネルが非常に大事であります。直接県民の話を聞く「知事と語ろう本音でトーク」を98回、県政にとって市町は最大のパートナーということで、市長、町長と「ひざ詰めミーティング」を46回実施しました。2期目に入った時には、若い方ともトークをしようとの事で「トークインキャンパス」を23回実施しました。それらを基本にしながら県政運営の具体的展開として考えました。

「ガバメント」から「ガバナンス」へ

平成15年に知事に就任した時、県庁講堂で職員にこれからの県政について「ガバメント」から「ガバナンス」へと申し上げました。これからは、県民や市町ともしっかり連携強化をしながらそれを引っ張っていく、そういうタイプの知事でなければならないというおもいで「ガバナンス」を打ち出しました。「誰のための県政、何のための県政なのか」常に考えるように職員にも言うてきました。職員の意識向上の為に、北川さんの時代に経営品質向上を取り入れました。これはとても良いツールであります。さらには、時代を考えれば環境マネジメント14000を三重県も行っていましたが、こういう取り組みがベースにあって全体のマネジメントが上手く、有機的に働かなければならないと思っています。

新しい時代の公

平成16年に三重行政経営体系を整備しました。悪質な口利き防止策は、知事就任後、いろんな不正と言われる口利きがあり、県会議員の中には、口利きが仕事と思っている人もいます。ただ、口利きでも良い口利きもあり、政策に反映させて欲しい等もあります。しかし良いか悪いかの判断がしにくい。それで文書によらない口利きは、文書に残すようにしました。その場合県民へ情報公開をします。公開した時に県民が判断します。平成18年に整備した時から悪質な口利きは大幅に激減しました。



野呂知事

観光局の発足

「感性を磨く県政」をしていて、どうしても「文化力」に基づく政策の展開が大事だと考えます。三重県は「常若」と、伊勢神宮に象徴される言葉がありますが、御遷宮によって、古の建物が、或は御信奉が、真新しい状態で引き継がれています。それらにあやかって「美し国おこし・三重」の推進を行ってきました。東紀州対策局は、世界遺産登録を契機に、平成19年には「熊野古道センター」、平成21年に「里創人熊野倶楽部」を整備しました。知事就任時には観光と名の着く部署がなかったので、三重県は観光ほど大きな柱はないとの思い、観光局を発足しました。

大震災への対応

退任直前ですが、東日本大震災で被災地に対する人的支援・物的支援に力を入れています。職員も派遣し、三重県は主に宮城県に対する物資を割り当てられていて、県民・企業の皆様方からの支援物資を送ります。また、被災住民の受入を県営住宅・市町住宅合計187戸用意しました。県営住宅については、既に入居が始まっています。驚く事に、先週30数件申し込みがあり、その殆どが福島県で、原発事故で逃れようとしているようです。この事故によって、今後の原子力政策に及ぼす影響は大きいのではないかと考えています。今回の地震によって、電力不足も加味して、どれ位の経済損失が出るか、これまでのリーマンショックで言われた程度とは比較にならないぐらい、将来に向けて影響を与えるのではないかと思います。なんとかこの危機を乗り越えて欲しいと思います。

最後に、2期8年みなさんにお世話になったこと心から厚くお礼申し上げます。

4月には新しい知事が誕生します。皆様のご協力・お力添えをお願いします。

(文責事務局)

★トッポ interview★



会員企業各社、トッポの素顔に迫る「トッポインタビュー」。第22回は経営者協会理事会社であります、株式会社ぎゅーとら 代表取締役社長 清水 秀隆さんにお話を伺うことができました。

「大きな」企業ではなく、 「愛される」企業をめざしています。

株式会社ぎゅーとら 代表取締役社長 しみず ひで たか 清水 秀 隆さん

～1949年（昭和24年）伊勢市で精肉店「うし虎總本店」からスタートし、「ふれあい・たいせつに」をキャッチコピーに、現在、県内26店舗の総合食品スーパー「ぎゅーとら」ですが、地域社会に密着した『オンリーワン』の存在をめざして、さまざまな取り組みをされています。その「ぎゅーとら」を語るうえで欠かせない2つのキーワード「ふれあい」と「地域貢献」についてお聞かせ下さい。～

当社のルーツは実を言いますとね。創業者の虎吉さんが、1935年（昭和10年）、大阪の吹田で最初の店をオープンしていきまして、戦後地元伊勢に帰ってきて再スタートしたのが、当社の始まりです。多くの方が社名について「牛肉の虎吉」から来ていると勘違いしていると思うのですが、丑寅の方角に店を構えたのが社名の本当の由来なんです。私も10数年前までそう思っていました。（笑）ある時「丑寅」を、「牛虎」に改名したところ、お客様から「ぎゅーとら」と呼ばれるようになり、それがいつしか皆様に定着したのが真相です。

1つ目のキーワードの「ふれあい」ですが、当社は肉屋さんからスタートしていますから、常にお客様とコミュニケーションを取りながら商売をさせていただいてきました。皆様のおかげで、品揃え、店舗も増えましたが、当社の原点はお客様との「ふれあい」です。現に店舗に見えるお客様の中には、「あの店長は」とか、「レジの〇〇ちゃんは、今日は休み？」など、あの人がいるから来て頂いているお客様も多くて、常々大切にしていかなければいけない当社のアイデンティティです。ですから「ふれあい・たいせつに」はロゴと一体化したものになっています。

次のキーワードの「地域貢献」ですが、全国展開している大手のスーパーと比べて、ローカルなスーパーが生き残れるのかは、一つに「どう地域に役立っているか」というのがあると思うんですね。逆に地域の皆様に密着した活動ができるのが強みだと感じています。単に寄付をするだけじゃなく、例えば台風なんかで浸水の被害にあったりしたら、いち早く避難先に弁当の差入れをおこなったり、地元のスポーツ大会に協賛や幼稚園や障がい者施設などに、トライクンのきぐるみショーを開催するなど、具体的に実行することが地域貢献だと思っています。「ぎゅーとら」らしく、地域の皆様にできる範囲で今後も活動してゆきたいと考えています。



お伊勢さんマラソン

～いろいろ工夫を凝らしている「お店づくり」についてお聞かせ下さい。～

当社は生鮮食料品を中心に扱っていますが、お客様の利便性を考えると薬とか雑貨もまとめて購入できた方がいいと考えまして、最近では、互いの相乗効果が期待できるドラッグストアと併設している店舗スタイルが主流です。また、新たな店舗には必ず入れているのが、「おおきんな」という地産地消のコーナーです。これは地元農家さんに、鮮度の高い朝穫り野菜などを中心とした青果を、直接持ち込んでいただいて販売する、言わば生産者の顔をお客様に確認していただいた上で商品をお買上げいただける販売形式です。ありがたいこ

とに評判も上々で、「このトマトおいしいんで買いにきました」と遠方から来られる方も見え、お客様から喜んでいただいています。さらに生産者の方にも「直接消費者の顔や声が聞けて張り合いがでる」と好評をいただいているのがうれしいですね。このコーナーのおかげで生産者との絆が深まり、当社の支えがまた一つ増えたように感じています。この「おおきんな」という名前ですが、伊勢弁で「ありがとう」という意味で、皆様に感謝の気持ちを込めて取り組んでいますという当社の意気込みも含まれています。



おおきんな

～学力、学歴に関係なく、やる気のある社員を積極的に登用されていますが、そのことについてお聞かせ下さい。～

男性とか女性とか、また、国立大学卒や高卒とかそういった基準で採用することはないですね。ただ、優秀な大学を卒業するというのは、大変な勉強や努力をしてきたわけですから、そのことに対して敬意を払います。法律や食品に関する科学的なことと専門的知識を必要とすることは別として、大事なものは、「お客さまにとってどうか」、「働く仲間にとってどうか」、という商売の基本センスの有無が当社にとって重要な要素です。また、学歴や年齢に関係なく、今も継続して学ぶことを続けている人、努力している人、こういった方々を登用することで結果を残してくれています。かけがえのないスタッフとして当社を支えてくれています。当社に入社してスタートラインを切った時はみな同じなんです。誰にでもチャンスはあるんです。どう生かすかは本人次第なんです。

～将来のビジョンについてお聞かせ下さい。～

「〇年後に〇百億円にします」とか、声高々なパフォーマンスは好きでないの、そういった言い方はしませんが、中身のともなった規模の拡大をすることによって着実に売上が伸びていくと思っています。現在1年に1店舗の出店をおこなっておりますので、近々には300億円を超える売上予測をしています。また、来年には、現在本社の1階にある物流の基地（プロセスセンター）を三雲の方に移転し、北・中勢地域への進出を計画しています。



プロセスセンター

～最後に、多忙な毎日で休みも取れにくいと思いますが、休日の過ごし方、趣味の音楽などお聞かせ下さい。～

基本、社長と呼ばれている方にとって、休日という休日はないんですね。ただ、自分でコントロールしないといけないですが、余暇の時間は作れるんですね。（笑）音楽が好きで若いころはバンドなんかもやっていたのですが、今自由に過ごせる時間は、最大の楽しみ曲作りに使っています。「おおきんな」のコーナーで流れている曲も作曲しましたし、結構長いこと手がけているので、人から頼まれることも多いんですね。（笑）最近では、親しくしていただいている伊勢商工会議所の上島会頭から商工会議所のテーマソングを依頼されたりもしています。ほぼ出来上がってきたので、発表の日が楽しみです。また、伊勢の人間ですので、勝手にですけど、ご遷宮にご奉納できる曲を作りたいとあれこれ作曲への着想を練っています。奉音できれば幸いです。

◆清水社長略歴

1959年 1 月28日生

職歴

- 1981年 (株)ぎゅーとら入社
鮮魚、精肉、青果、惣菜等の担当を順次経験する。
- 1988年 二見店店長

- 1989年 ハイジー店店長
- 1993年 日配バイヤー
- 1995年 営業部長
- 1997年 常務取締役
- 2002年 専務取締役
- 2005年 代表取締役社長

第6回「三重県『産・学』就職情報交流会」開催

～ ミスマッチ就職の防止と改善 ～

3月7日(月)～8日(火)の両日、三重地区学生就職連絡協議会、三重県高等学校進路指導協議会共催、三重県、三重県教育委員会、三重労働局、三重労使雇用支援機構の後援をいただき、鳥羽シーサイドホテルにおいて、第6回「三重県『産・学』就職情報交流会」が開催されました。

行政、企業の人事・採用担当者と、高等専門学校を含めた高等教育機関の就職担当者が、一堂に会する『産・学』就職情報交流会は、今回は高等学校の就職担当者を含め、特別講演、産学による就職事情に関する発表、名刺交換会、2日目に産学によるグループディスカッションを開催し、互いの信頼関係の強化に繋がりました。

1日目は113名、2日目は50名の参加者が集い、就職、採用について有意義な意見交換を行いました。



交流会風景

【開催内容】

第1部 産学就職情報会議

1. 開会挨拶 三重県経営者協会 専務理事 横田 正典 氏
2. 基調講演 テーマ：『ミスマッチ就職の現状と職場定着問題』
講師：三重大学人文学部准教授 石坂 督規 氏
講演内容 ①ミスマッチが発生する背景
②ミスマッチ就職の現状
③ミスマッチ就職防止のために求められること
④三重大学の新たな試み
－キャリア・ピアサポーター制度－
3. 産学による発表会及び質疑応答
・産学による発表会
企業側「今後の採用見通しと、今、企業に求められる人材とは」
①中部電力(株)三重支店 人事課長 牧野 博之 氏
当社が求める人材像：
(1)自ら考え、実行し、やり遂げる能力をもった方
(2)電気事業という公益性の高い事業に対し、誇りと気概を持って取り組める方
②(株)ぎゅーとら 人事部教育課長 荒木 由佳 氏
当社の求める人材：
(1)自ら考え行動できる人
(2)明るく元気で積極的な人
(3)コミュニケーションが上手にとれ、リーダーシップのある人
(4)仕事の創意工夫のできる人
(5)「想い」のある人



石坂講師



牧野人事課長 (中部電力(株))



荒木教育課長 (株)ぎゅーとら

学校側「インターンシップの取り組み及び

最近の学生気質」

内 容：(1)大学生等の内定状況（今期）

(2)最近の若者気質 等々

①三重短期大学 学生部長 東福寺一郎 氏

②相可高等学校 教 諭 山中 昭宏 氏



山中相可高校教諭



3月8日(火) 伊勢新聞

4. 閉会挨拶 三重県生活文化部雇用特命監 平井 保彦 氏

第2部 産学名刺交換会

1. 主催者挨拶 ①三重地区学生就職連絡協議会会長

三重短期大学 学生部長 東福寺一郎 氏

②三重県高等学校進路指導協議会会長

相可高等学校 校 長 上野 哲八 氏

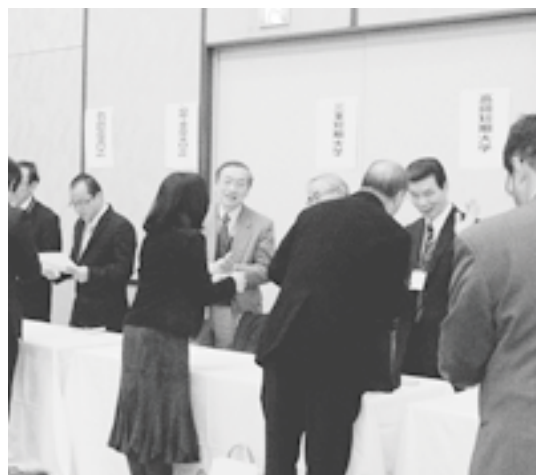
2. 企業人事採用者と学生就職担当者による名刺交換会



挨拶する東福寺学生部長



挨拶する上野校長



名刺交換会風景

産学グループディスカッション（2日目）

『ミスマッチ就職の防止と改善』をテーマに3グループに分かれ、グループディスカッションを行いました。冒頭、座長より第1日目の「基調講演」、「企業、大学・高校の発表」の要旨を報告され、参加者より自己紹介並びに昨日の感想を述べました。その後、フリーに質問、意見交換がなされ、各グループとも熱い討議がおこなわれ、今後のミスマッチ就職対策に有意義な情報交換の場になりました。



グループディスカッション風景

第1グループ 座長：三重短期大学

学生部長

東福寺一郎 氏

第2グループ 座長：三 重 大 学

副 学 長

中川 正 氏

第3グループ 座長：鳥羽商船高等専門学校 電子機械工学科長

大石 哲男 氏

三重経協活動報告

労務管理改善協力委員会

労管定例会議&2011年春季労使交渉セミナー

～今後の経営戦略、あるべき姿を模索する～

2月22日(火)プラザ洞津3階「紅葉の間」において、労務管理改善協力委員会定例会議並びに、労管実務セミナーとして「2011年春季労使交渉セミナー」を開催いたしました。

当日は、定例会議25名、労管実務セミナーには、32名の参加がありました。

牧野会長の挨拶に続いて、第1部会の活動報告を大内副部長（近畿日本鉄道㈱）からなされ、第2部会の活動報告を川嶋副部長（上野キヤノンマテリアル㈱）よりおこなわれました。続いて事務局より連絡・報告事項として、各社人事異動にともなう委員・部員の変更と第60回労管コンペ、共通部会についての説明がありました。



例会風景

定例会議終了後、引き続き同会場で「2011年春季労使交渉セミナー」が開催されました。

横田専務理事の開会挨拶の後、日本労働組合総連合会三重県連合会（連合三重）会長 土森 弘和 氏より、『2011年労使交渉に臨む連合（三重）の基本姿勢』と題して、講演を伺いました。「働くことを



土森会長



春季労使交渉セミナー風景

軸とする安心社会に向けて」をスローガンに連合三重の取り組みを示されました。また、今春闘における取り組みとして、4つの骨組み（①すべての労働者の賃金、労働時間などを含めた労働条件の改善と格差是正②分配の歪の是正③ディーセントワークの実現に向けたワークルールの確立とワーク・ライフ・バランスの推進④運動の両輪としての政策制度の要求と実現）と春闘ミニマム運動を中心に具体的な方針を伺いました。



新田講師

続いて、(社)日本経済団体連合会労働政策本部主幹 新田 秀司 氏より『2011年労使交渉対応の考え方と具体策』をテーマに、2011年版「経営労働政策委員会報告」を基に、日本経済の動向、雇用情勢等の説明を伺い、労使交渉・協議における経営側の基本スタンスを示されました。また、同報告書に対する「連合見解と反論」にもふれ、主要産業別労働組合の方針と主なポイントも紹介され、人事・労務担当者にとって大変有意義なセミナーでした。

2月労管第2部会活動報告

2月7日(月)プラザ洞津2階「明日香の間」において、労務管理改善協力委員会第2部会、産業雇用安定センター、70歳まで働ける企業創出事業の共催として講演会を開催いたしました。



部会風景

榛葉部会長（横浜ゴム(株)三重工場）の挨拶の後、(株)百五経済研究所経営コンサルティング部部長兼首席研究員 大地 勉氏より、「最近の雇用情勢と労働法」をテーマに講演が行なわれました。雇用情勢や雇用環境を取り巻く状況説明の後、主要な各労働法の人事担当者が留意すべきポイントについてわかりやすく解説いただきました。続いて、特定社会保険労務士 田中 克己氏より「高齢法」について、事例を用いたケーススタディを中心に解説いただきました。また、最近の労働問題、実務担当者が注意すべき点などを伺いました。講演の後、活発な意見交換がおこなわれ、非常に有意義な部会になりました。

当日は、35名の参加がありました。

第3回女性懇話会開催

3月24日(木)東洋軒において、第3回の女性懇話会を開催しました。当日は13名の参加があり、女性懇話会の会則の審議並びに平成23年度の活動について検討が行われました。続いて実務講話として、三重労働局雇用均等室 鈴木 里美 室長より、「ポジティブ・アクション」、「女性のチャレンジ支援」の三重県の取り組み、子育て支援の「イクメン」など雇用均等関係の講話を伺い、「新入社員の受入のために」をテーマに、(社)日本産業カウンセラー協会中部支部三重事務所 太田 克子 所長より、「変容する若者の意識（職業観の変容）」や最近の新入社員の特徴や傾向を述べられ、そういった新入社員の受入にあたり、職場環境づくりやコミュニケーションにつ

いてアドバイスをいただきました。その後昼食を取りながら談笑し交流を深めました。



女性懇話会風景



鈴木室長（左）・太田所長（右）

【新会員】



安田小児科 内科
安田 妙子氏

新しく仲間に入れて頂けた事、光栄に思っております。女性でご活躍されている方々を見習い、勉強できれば幸いです。

第45回 三重労使会議開催

2月4日(金)プラザ洞津2階「明日香」にて、第45回三重労使会議を経営者側14名、労働者側17名の出席者で開催された。

経協奥田会長、連合三重土森会長両会長より、2011年春季生活闘争への取り組み、最近の経済状況並びに雇用問題についての挨拶があり、その後、労使協働事業報告、労使双方による取組みの紹介が行われた。終始和やかな労使の意見交換があり、今後の春季労使交渉に向けて、双方の理解を深める有意義な会議になった。



第45回三重労使会議風景

■労使協働事業報告

- ①みえ雇用創出会議作業部会報告
- ②三重労使雇用支援機構活動報告
- ③三重県委託事業報告
- ④婚活事業「素敵な出会いの会」「ハピマリ」活動

■労使双方による取組みの紹介

三重経協…(株)安永 人事部人事グループ長 山本 正仁 氏
連合三重…全電線 議長(連合三重副会長) 大西 康智 氏



土森課長より要請書を受け取る奥田会長

ワーク・ライフ・バランスセミナーの開催

内閣府が提唱するワーク・ライフ・バランスの実現に向けた「3つの心構え」と「10の実践」の理解と促進に向け、実践事例なども含めたセミナーをみえ雇用創出会議、三重労働局共催で、下記のとおり県内3地域で開催いたしました。3会場の参加人員は154名を数え、各会場とも好評で大変有意義なセミナーとなりました。

■開催内容

No.	日時及び開催場所	プログラム
1	津会場 2月23日(水) 13:30~15:30 サン・ワーク津 研修室(1F)	・基調講演 内閣府仕事と生活の調和推進室 江原 春彦氏 ・事例発表:(株)第三銀行 人事教育部人材開発課 係長 伊藤 美希氏
2	伊勢会場 3月1日(火) 13:30~15:30 伊勢シティホテル 白鳳の間(2F)	・基調講演 内閣府仕事と生活の調和推進室 高村 静氏 ・事例発表:(株)第三銀行 人事教育部人材開発課 係長 伊藤 美希氏
3	四日市会場 3月2日(水) 13:30~15:30 四日市市勤労者・市民交流センター 東館 大会議室(3F)	・基調講演 内閣府仕事と生活の調和推進室 竹林 敏之氏 ・事例発表:(財)食品分析開発センター 総務・経理リーダー 前田 明子氏



津会場セミナー風景



伊勢会場セミナー風景



四日市会場セミナー風景

我が良き友よ



昭和四日市石油㈱

労務課長

吉田 仁氏

「カンパーい！」東京某所の夜。私が東京本社勤務時代の、特に仲の良かった仲間が仕事の都合で参加出来ない何名かを除いて7名が約10年ぶりに集ってくれた。名目は、少し遅い新年会であった。

みんな忙しいのに横浜、遠方は福岡からも駆け付けてくれた仲間もいた。本当にありがたい、頭が下がる。

この仲間たちとの出会いは、私が東京本社に転勤になり39歳で生まれて初めて単身赴任生活をスタートさせた頃の1999年9月である。私は39歳になるまで1人暮らしの経験がなく、学生時代から就職して29歳で結婚するまでは親と同居生活し、その後結婚してからは女房との生活を続けてきた。転勤が決まり単身生活となる時に女房からはドコモのCMではないが「ご飯はどうするの？洗濯はどうするの？」と言われ1人暮らしが出来ないのではと心配され、そんな中で最初の2年間は横浜での生活がスタートした。お台場本社との通勤時間は1時間15分位であったが、何時に仕事が終わっても家に帰ってから食事を作り、洗濯も掃除も自分で行う生活がスタートした。その後の2年間は東京都内に引っ越し通勤時間は30分と近くなったのだが、逆にこのころに大きな仕事を任せられ、家で食事することがほとんどなくなった。

この大きな仕事のおかげで、今回の仲間との結束が更に強くなることとなった。夜遅くまで真剣に議論し、時には酒を酌み交わしながら議論もした。社

内では過去に、だれもやったことがない仕事で、参考になるものが何もなく、みんなで1から考え、答えを求めた。試行錯誤を繰り返して、なんとか仕事を成功させることができた。結果的にこの仕事の終わりが、私の単身赴任生活の終わりとなり三重県に戻ることとなった。

今回の飲み会の本当の理由は、新年会だけではなく私の愚痴を聞くために集まってくれたのだ。このころの私は、仕事が思うように進まず落ち込んでいた時期であった。それまでに何人かとは電話で話をしたりしていたので、私の状況を知っている仲間が今回の飲み会を開催してくれたのだ。本当にありがたかった。

顔を合わせた瞬間に10年前に一気にタイムスリップした。見た目は10年経つと変わった仲間もいるが中身はぜんぜん変わらず、相変わらずパワフルで熱い議論を交わした単なる昔の飲み仲間である。これがやはり良い仲間なのだ。酒が進めば進むほどに酔拳ではないが、更に熱く語りだすメンバーばかりで、昔と何ら変わっていない。参加メンバーの女性の1名を除いて全てが管理職になっていて、みんなそれぞれに苦勞をしているようである。私なんかと比較できない苦勞をしている仲間がほとんどで、私はまだまだ恵まれている。こんな状況で落ち込んでいてどうするのかと考えさせられた。それでもみんなは、私の愚痴を聞いて、アドバイスもしてくれた。

10年前に同じ苦勞を共にした仲間は、今も何も変わっていない。これからも良き仲間である続けたい。みんなそれぞれに家庭があり仕事があるので頻繁には集まれないが、また忘れたころにでも集まり、あの頃にタイムスリップして昔話に花を咲かせたい。これからも末長く付き合いたい「我が良き友」たちへ。

会員企業の皆様へ協力をお願い!!

「震災に係る雇用問題への配慮」に関する要請

4月20日(水)三重労働局 藤井 礼一 局長が当協会の奥田会長のもとを訪ね、下記の「震災に係る雇用問題への配慮」に関する要請書を手渡しされました。



藤井局長から要請書を受取る奥田会長

【要 請 内 容】

- ①震災、計画停電、震災に伴う原材料入手の困難等の影響により事業活動の縮小を余儀なくされた事業主に対する雇用調整助成金を活用した雇用の維持
- ②職を失った被災者のため、特に被災地からの避難者を対象とする求人の申込みと積極的な雇入れ
- ③震災により内定取り消しを受けた学生並びに、被災した未就職卒業者の助成金制度活用等による積極的な採用
- ④電力不足に対応するため、休日・労働時間等の労働条件を変更する場合の労使間での十分な話し合い
- ⑤震災により被害を受けた、非正規労働者（派遣労働者、有期雇用労働者、パートタイム労働者等）に対する雇用の安定のための最大限の配慮

四月二十一日(木) 中日新聞

震災後の雇用維持

三重労働局が要請

三重労働局は二十日、県商工会議所連合会と県経営者協会に、労働者の雇用維持や東日本大震災被災者の積極的な雇い入れを要請した。藤井礼一労働局長が、それぞれの会長に要請書を手渡した。

震災の影響で休業を余儀なくされた場合、従業員の休業手当の一部を雇用調整助成金でまかなえるとし、活用を呼び掛けた。

藤井局長は「会社が被災して内定を取り消されたり、仕事を失った人もいると聞く。県内にも避難してきた人がおり支援をしっかりとしたい」と話した。

二十一日には、県商工会連合会と県中小企業団体中央会にも要請書を出す。

(宿谷紀子)

平成23年4月8日

労働者の雇用の維持に 雇用調整助成金を活用してください！

東日本大震災の影響（※1、2）により事業活動の縮小を余儀なくされた事業主が、労働者の雇いを維持するために休業等を実施した場合、休業手当等の負担相当額の2／3（中小企業の場合は4／5）が助成されます（※3）。

※1 交通手段の途絶により従業員が出勤できない、原材料の入手や製品の搬出ができない、来客がない場合や、事業所、設備等が損壊し、修理業者の手配や部品の調達が困難なため早期の修復が不可能な場合などに助成対象となります。

詳しくはお近くの都道府県労働局・ハローワークにお尋ねください。

※2 事業所の倒壊や生産設備の損壊等地震の直接的な影響によるもの、避難勧告や退避指示など法令上の制限を理由とするものは助成対象となりません。

このような事情による休業中の賃金が支払われていない場合は雇用保険の特例措置が適用され、労働者が実際に離職していなくとも失業手当が支給されます。

※3 1人1日当たり7,505円が上限です。

【支給要件】

- ① 雇用保険の適用事業主であること
- ② 生産量又は売上高などの事業活動を示す指標の最近3ヶ月間の月平均値がその直前又は前年同期に比べ5%以上減少していること（※）

【特例措置】

- ① 青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉、新潟、長野の9県の災害救助法適用地域に所在する事業所の場合、
 - ② ①の災害救助法適用地域にある事業所等と一定規模以上（総事業量等に占める割合が3分の1以上）の経済効果を有する事業所の場合
 - ③ 計画停電の実施地域に所在し、計画停電により事業活動が縮小した事業所の場合
- 以上の場合は、最近3ヶ月ではなく1ヶ月の生産量、売上高等がその直前の1ヶ月又は前年同期と比べ5%以上減少していれば対象となります。（平成23年6月16日までの間は、震災後1ヶ月の生産量などが減少する見込みでも対象となります。）

また、①の場合は、本来は事前に届ける必要のある計画届の事後提出が認められます。

（平成23年6月16日まで）

ハローワークの「特別相談窓口」が、各種助成金の支給申請などの相談にお応えします。

全国のハローワークでは、被災者を対象とした求人や、社宅、寮付きの求人の確保に取り組んでいます。こうした求人のお申込みをぜひお願いします。

都道府県労働局や労働基準監督署で労働条件、安全衛生、労働保険、労災補償などに関する相談にお応えします。

Vol 6 鈴鹿短期大学

新たな「生活コミュニケーション学」を発信していきます

本学は、昭和41年（1996年）に家政学科を設置して開学しました。以後、学科・専攻の変更や男女共学など、社会のニーズに応じて教育内容等々を、充実してきました。

平成23年度より、生活コミュニケーション学科として、生活コミュニケーション学専攻・こども学専攻・食物栄養学専攻で学科を編成しています。人間であり続けるためには欠かすことの出来ない、最も根源的なコミュニケーションを、これら3専攻を通して「共感」「教育」「食感」という立場から深く学び、地域社会に大きく貢献できる人材の育成を目指しています。今年が開学45周年を迎え、これを契機に、高校生および社会人入学者の希望に充分に応じられるよう、教職員一同、新たな気持ちで精進する所存です。

養護教諭・福祉コース

児童・生徒の「こころ」と「からだ」の健康を守るための専門知識と実践力を身に付けた養護教諭を養成します。同時に福祉の心も学びます。県内の学校等で、多くの卒業生が活躍しています。

生活コミュニケーションコース

人と人、人と動物、人と社会、人と自然等のコミュニケーションを通じて、社会へ情報を発信できる人材を育成します。活躍できる就職先を鋭意開拓中です。

栄養教諭・栄養士コース

人として健康な生活を送るための食事や栄養指導、生活習慣病の予防などのアドバイスができる栄養士を養成します。食品・給食関係企業へ就職しています。

幼稚園教諭・保育士コース

乳幼児のみならず18歳までの「こども」を幅広い視点でとらえ、「こども」を対象とする専門家の育成を目指します。幼稚園・保育所への就職が大部分です。

専攻科を開設（短大卒業後2年間修学）

今年度、「健康生活学専攻」を開設しました。これにより、4年生大学卒業時に得られる「学士」の学位を得ることができるようになりました。また、所定の単位を修得することにより、「養護教諭1種免許状」を取得できます。



音楽療法士の資格取得ができます

音楽療法士養成協議会から、「音楽療法士（2種）」の養成所に認定されました。今年度「こども学専攻」の入学生から資格取得を目指す学生のためのカリキュラムを編成しています。

進路支援・キャリア教育

学生の進路指導を積極的に推進するために、進路支援センターを設置し、学生委員会の教員と専任の担当職員を配置しています。1年次には、進路活動の準備期間として「キャリア教育」のためのガイダンス、2年次には、「個人面談」を実施して、就職活動に備えています。また、関係の皆様のご支援をいただいてインターンシップを実施しています。

お問い合わせ 鈴鹿短期大学
〒513-8520 鈴鹿市庄野町1250
電話 059-378-1020(代)
FAX 059-379-4693
HP:<http://www.suzuka-jc.ac.jp/>

会員発HOTニュース

会員企業の最新HOTニュース（企業PR・店舗紹介・新商品・新サービス・新装オープン等）をお届けいたします。

■新店舗オープン（大東自動車）



Curves が「イオン伊勢店2階」に4月12日にオープン！

4月12日～無料体験会」スタート！

カーブスはアメリカ生まれ。世界400万人が利用をしている世界最大級のフィットネス・ルームです。そのアメリカでは、ダイエットを失敗し続けている女性から『カーブスは最後の砦（とりで）』とも言われています。

オープン記念 特別無料体験会先行予約受付中！

ウエストや二の腕をすっきりさせたい。前の体重に戻したい。でも忙しくて運動する時間はないし…。そんな女性のためのフィットネスがカーブスです。

【忙しいあなたのための30分】
筋力トレーニングで基礎代謝を上げて、有酸素運動で脂肪を燃やす。今まで90分は必要だった運動を30分で可能としたのが、今話題の「女性のための30分フィットネスカーブス！」

女性だけの 30分フィットネス

カーブス 伊勢ジャスコ
電話 0596-27-8919

■春のご案内（御在所ロープウェイ）



INFORMATION

御在所DE会いたい。

花咲く時期は4月中旬から6月上旬とわずかな間だけです。

写真はイメージです。

御在所ロープウェイ
TEL 059-392-2261
www.gozaisho.co.jp

■事業案内（碧会）

共に支え合う医療と介護の未来を目指して

ヤナセ メディケア グループ

〒514-0016
三重県津市乙部4番10号
TEL 059-213-5677 FAX 059-213-5332
http://www.pmc.or.jp

医療法人 碧会

ヤナセクリニック
フェニックス健診クリニック
介護老人保健施設 なごみの里
複合型介護施設群 しおりの里

今春 フェニックスメディカルセンター5Fに
メディカルフィットネス 歩 がOPEN！

社会福祉法人 寿泉会

介護老人福祉施設 泉園
介護老人保健施設 万葉の里
グループホーム 八幡園
複合型介護施設群 しおりの里

今春 しおりの里に"特別養護老人ホームと
ショートステイ"が増設・新館OPEN！

※ご応募はメール(hotnews@miekeikyo.jp)で承ります。詳細はメールでお知らせします。(掲載は応募順)

三重県委託事業

中高年齢者雇用支援事業

極めて厳しい雇用情勢の中、三重県委託事業として、中高年齢者の雇用支援事業を開始させて頂きました。

中高年齢者の再就職を応援します

経 験

責任感

安定感

中高年齢者の豊富な経験と
企業が求める人材のマッチ
ングをコーディネーターが
させて頂きます。

企業様のさらなる発展を
応援致します。

* 4月下旬より開始予定

三重労使雇用支援機構 中高年齢者雇用支援事業

〒514-0033 津市丸之内9-18 津丸の内ビル3階 TEL:FAX 059-223-7771

平成23年度

インターンシップの受入 事業所を募集しています

インターンシップは、学生が在学中に企業などで一定期間就業体験を行う教育制度です。
地域の産業界の皆様のご協力があるてはじめて実現できる制度ですので、積極的な参加をお願いいたします。

インターンシップ受入登録事業所を募集しております。未登録の会員事業所、またご紹介いただける事業所の方は、事務局 西場（にしば）までご連絡をお願いいたします。

三重県下で約550事業所が現在登録されています。

* 参加する学生は、事前研修を受け、インターンシップ保険等に参加した上で実習に参加します。
(事業所側のご負担はありません)

受入事業所にとってのメリット

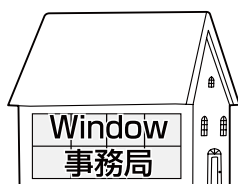
企業のPR効果

優秀な人材の発掘

職場の活性化

受入による
職業観・就労意識の形成・向上

三重県インターンシップ受入企業開拓業務



新会員の紹介

角仙合同株式会社

事業内容 日用品雑貨卸商
 代表者 代表取締役 村田 典子
 所在地 伊勢市河崎1丁目8-29
 電話 0596-25-7100
 F A X 0596-28-1110
 ホームページ <http://kadosen.jp/>



株式会社R&Eコンサルタント

事業内容 コンサルタント業（経営と労務・福祉・IT・人材育成）
 代表者 代表取締役社長 小林 吉光
 所在地 津市大里窪田町1577番地8
 電話 059-231-1626
 F A X 059-231-1626



ホームページ <http://www.b-mall.ne.jp/company/re-csl/>

れんらく・つうしん

労務管理改善協力委員会5月第1部会

- ◆日程 平成23年5月13日(金) 13:30~17:00
- ◆開催場所 昭和四日市石油(株) 塩浜クラブ 2Fホール
- ◆内容
 - I. 昭和四日市石油(株)工場見学
 - II. 基調講演
 「企業における災害対策の現状と課題」
 加藤 清氏
 （三重県防災危機管理部地震対策防災技術指導員）
 - III. 事例発表
 - IV. 情報交流会

医療法人妙光会 安田小児科 内科

事業内容 医療法人
 代表者 理事長 安田 尚樹
 所在地 松阪市上川町2194-3
 電話 0598-28-8828
 F A X 0598-28-8833
 ホームページ <http://www.citydo.com/sp/0598-28-8828>



社会福祉法人 名張育成会

事業内容 社会福祉事業
 代表者 理事長 上村 友則
 所在地 名張市美旗中村2326番地
 電話 0595-65-0271
 F A X 0595-65-2936
 ホームページ <http://www.n-ikuseien.jp/>



平成23年度定時会員総会

- ◆日程 平成23年5月30日(月) 15:00~17:30
- ◆開催場所 プラザ洞津3階 孔雀の間
- ◆内容
 - ・平成22年度事業報告 など
 - ・特別講演
 「企業における防災対策・リスク管理」
 川口 淳氏
 （みえ企業等防災ネットワーク運営委員会副委員長）

社会保険(健康保険・厚生年金保険)実務講座

- ◆日程 平成23年6月24日(金) 13:00~17:00
- ◆開催場所 プラザ洞津2階 明日香の間

ご存知ですか…こんな機関？

出向・移籍支援事業

「失業なき労働移動」をめざして

人材送出企業

- 人員に余剰感がある
- 雇用調整を検討している

- 一時的に仕事量が減り社員の出向先を探しておられる企業
- 支店閉鎖、工場閉鎖などで社員の移籍先を探しておられる企業
- 工場移転を計画されており人材の過不足が発生する企業
- 不採算部門があり人材の移動を考えておられる企業
- 事業規模の縮小を計画されている企業
- 65歳までの継続雇用が自社内では困難で、該当者の再就職を支援したい企業

産業雇用安定センター 三重事務所

送出情報の
収集・登録

受入情報の
提供

受入情報の
収集・登録

送出情報の
提供

企業とこの話し合い・面接

無料

出向・移籍の成立

人材受入企業

- 事業の拡大、欠員発生などにより、必要な要員を確保したい企業
- 新規部門に精通した人材を採用したい
- 経験豊富な即戦力の人材を確保したい企業

- 人員が不足している
- 人材の補充を検討している

当センターをご利用いただく場合は
前もってご連絡ください。

(財)産業雇用安定センター 三重事務所
TEL 059-225-5449

業務日誌 (2011.1.13)

事業名	とき	ところ	
第10回海外視察反省会	1/25(火)	ホテルグリーンパーク津	経 協 関 係
第45回三重労使会議	2/4(金)	プラザ洞津	
労務管理改善協力委員会2月第2部会	2/7(月)	プラザ洞津	
労務管理改善協力委員会例会 & 2011年春季労使交渉セミナー	2/22(火)	プラザ洞津	
第6回三重県産・学就職情報交流会	3/7(月)・8(火)	鳥羽シーサイドホテル	
第3回女性懇話会	3/24(木)	東洋軒	
理事・役員会 & 特別講演	3/28(月)	プラザ洞津	



三重県経営者協会

TEL 059-228-3557

FAX 059-228-3710

ホームページ

<http://miekeikyo.jp>

E-mail

info@miekeikyo.jp

〒514-8691 津市丸之内養正町4-1 森永三重ビル3F

平成23年4月25日 発行
発行人／三重県経営者協会